

# かがやく

2017年 APRIL NO.10

福島県に輝く人と未来と文化スポーツのために

ご挨拶 理事長 高城 俊春

東邦銀行 教育・文化財団の活動 当財団の奨学金事業について ..... 2

助成金交付先対象団体と活動（平成 29 年度上期文化・スポーツ活動ほか） ..... 3

源郷のこけし群 西田記念館の展示（報告） ..... 4

かがやく FLASH 平成 28・29 年度助成団体の活動から ..... 6

“パシオン” プーロ・フラメンコ/ジンギスカップ実行委員会/  
川内村文化財保存会【浦安の舞】/県立川俣高家庭クラブ・JRC 同好会/  
県立只見高ボランティア愛好会

SPOTLIGHT TALK 「福島市おかあさん合唱団」 ..... 8



福島県庁混声合唱団「きびたき」  
創立 45 周年記念定期演奏会  
平成 28 年 3 月 6 日(日)



喜多方市松の木女声コーラス  
つなごう歌の輪・心の輪・共生の絆コンサート  
平成 27 年 10 月 3 日(出)



女声合唱団「響」  
第 6 回定期演奏会  
平成 27 年 11 月 3 日(火)



祝 塩川・コールアイリス 40 周年記念発表会

HIGH LIGHT

## 地域に響く合唱の輪を支援！

東邦銀行教育・文化財団は、県内で文化・スポーツ活動をする団体の活動への助成を行っています。福島県の合唱活動は全国的に見て高いレベルを維持し、裾野を広げています。長く活動を続けている団体も多数あり、福島市おかあさん合唱団(P8に掲載)の60周年をはじめ、周年記念定期演奏会も盛んに開催されています。県内各地の活動の継続を支え、県民生活を彩る美しいハーモニーをきらめかせるために、当財団は今後も支援を続けていきます。

公益財団法人 東邦銀行 教育・文化財団  
<http://www.tohobankkyoikubunka.jp/>



塩川・コールアイリス  
40 周年記念発表会  
平成 27 年 11 月 1 日(日)

# ご挨拶



公益財団法人 東邦銀行教育・文化財団  
理事長 高城 俊春

早いもので、平成27年7月に当財団の理事長を拝命してから1年半が経ちました。文化・スポーツ活動に対する助成事業及び奨学金事業、そして西田記念館の管理・運営事業は順調に推移している現状にあります。

「原郷のこけし群西田記念館」におきましては平成27年に20周年目の節目を迎え、その記念特別展を開催中に奇しくも来館20万人目を迎えるという二重の慶事がございました。

また、東京の公益財団法人未延財団様からは、東日本大震災被災生徒への奨学金に充当して欲しいと三千万円のご寄付を頂いております。ありがたいも平成24年に同額の寄付を寄せられており、これら義捐金は「未延財団震災特別枠」として当財団奨学金と合わせて使われ、これまでに延べ39名に給付されております。

更に、福島商事株式会社様、東邦土地建物株式会社様、及び東邦ビル株式会社様からは、多額の善意の浄財を頂いており、こちらは平成28年度に持ち上げた新助成事業「県内高校生のスポーツ・文化活動活躍支援助成」の創設に充てさせて頂きました。この事業は、県民に大きな感動と希望を与え

る原動力となる高校生、具体的には全国高等学校総合体育大会や全国高校総合文化祭、或いは全国高校定時制通信制大会に出場する選手に対し、2020年の東京五輪開催まで1人当たり五千円を助成するというものです。私事ながら、かつてこれらの大きな高校生の大会全てに関わった経験から断言し得ることは、晴れて全国大会へという喜びと共に旅費の捻出が大変であるということだと思います。それ故、この助成は生徒や学校にとつて大いに助かるだろうということは論を待たないでしょう。

このように、皆様方の全面的な数々のご支援ご協力があればこそ、当財団の事業は社会に対する貢献度を高めることが出来るのであり、心より感謝申し上げます。現在、若い力がスポーツや文化等あらゆる分野で躍動しております。東京五輪もさることながら、福島の復興や成長の主役となるのは間違いなく彼等であります。当財団は今後とも、より有意義で積極的な事業を展開し、明日の福島を築き上げる若い力の成長をこれからも支えて参りたいと考えておりますので、今後とも何卒ご厚情賜りますようお願い申し上げます。

## TOPICS 助成金交付先対象団体と活動

◆東邦銀行教育・文化財団の助成金の総額は、平成5年設立以来 10,570 万円と なります。(平成29年3月末)

- 文化・スポーツ活動への助成額は、797 団体 (文化 477、スポーツ 320) に合計 9,880 万円
- 地域の活性化に貢献する文化活動 (平成26年度創設) への助成額は、10 団体に合計 100 万円
- 高校生対象の文化・教育研究活動 (平成26年度創設) への助成額は、15 団体に合計 140 万円
- 高校生のスポーツ・文化活躍支援 (平成28年度創設) への助成金は、900 名に合計 450 万円

### 1. 平成29年度上期 (平成29年4月から平成29年9月までの期間に実施予定)

文化・スポーツ活動 (決定) 団体と活動名 18 団体 (文化5団体・スポーツ13団体) 助成金額 200 万円

団体名	助成対象活動名	開催日・開催場所
文化部門		
福島マンドリンアンサンブル (福島市)	マンドリンプロムナードコンサート2017	H 29. 8. 6 (日) とうほうみんなの文化センター
福島県水彩画会 (郡山市)	第63回福島県水彩展	H 29. 6. 20 (火)~ 25 (日) 郡山市民文化センター展示室
スウィングセット!ジャズオーケストラ (郡山市)	スウィングセット!ジャズオーケストラ メモリアルライブ	H 29. 8. 26 (土) 郡山市中央公民館
ミハルコーラス (田村郡三春町)	ミハルコーラス71周年コンサート	H 29. 5. 21 (日) 三春交流館まほらホール
プリムローズ (会津若松市)	プリムローズ愛♡2017	H 29. 6. 25 (日) 会津風雅堂
スポーツ部門		
福島県スポーツチャンバラ協会 (伊達市)	第70回福島県総合体育大会 第20回スポーツチャンバラ選手権大会	H 29. 7. 2 (日) 福島市国体記念体育館
余目一輪車クラブ (福島市)	余目一輪車クラブ発表会	H 29. 9. 23 (土) 余目小体育館
飯野町ソフトボールスポーツ少年団 (福島市)	第5回UFOカップ	H 29. 9. 3 (日) 福島市十六沼公園
川俣ジュニアフレンズスポーツ少年団 (伊達郡川俣町)	川俣ジュニアフレンズスポーツ少年団 結成42ソフトボール大会	H 29. 6. 25 (日) 伊達市月館運動場
二本松スポーツ少年団 (ソフトボール) (二本松市)	二本松スポーツ少年団創立5周年記念ソフトボール大会	H 29. 5. 4 (休) 5. 5 (金) 本宮市白沢運動場他
二本松剣友会 (二本松市)	二本松剣友会第60回県下少年剣道大会	H 29. 9. 18 (月) 二本松城山総合体育館
岳下ソフトボールスポーツ少年団 (二本松市)	岳下ソフトボールスポーツ少年団創立20周年記念大会	H 29. 4. 22 (土) 二本松城山総合グラウンド
岩根バレーボールスポーツ少年団 (本宮市)	岩根バレーボールスポーツ少年団創立30周年記念大会	H 29. 7. 22 (土) 岩根小学校体育館他
大槻バレーボールスポーツ少年団 (郡山市)	第3回東日本大震災復興祈念大槻杯バレーボール大会	H 29. 9. 16 (土) 9. 17 (日) 郡山市西部体育館他
明健ソフトボールスポーツ少年団 (郡山市)	明健ソフトボールスポーツ少年団結成30周年記念大会	H 29. 9. 17 (日) 明健小学校校庭他
行徳ソフトボールスポーツ少年団 (郡山市)	行徳ソフトボールスポーツ少年団創立40周年記念大会	H 29. 9. 23 (土) 富久山スポーツ広場他
須賀川バスケットボールスポーツ少年団 (須賀川市)	マイノリティリーグ29	H 29. 5. 20 (土) 5. 21 (日) 須賀川市民スポーツ会館
梅ヶ香ソフトボールスポーツ少年団 (いわき市)	梅ヶ香ソフトボールスポーツ少年団創立20周年記念大会	H 29. 7. 23 (日) 新舞子多目的運動場

### 2. 地域の活性化に貢献する文化活動 (決定) 団体と活動名 平成29年度上期6団体、助成金額 30 万円

団体名	助成対象活動の内容	活動場所
川内村 重要無形民俗文化財 高田島神楽保存会	諏訪神社例大祭等での奉納。伝統芸能を継承。	諏訪神社、天山祭、特老
同上 高田島獅子保存会	諏訪神社例大祭等での奉納。伝統芸能を継承。	諏訪神社、天山祭、特老
同上 西郷三匹獅子舞保存会	諏訪神社例大祭等での奉納。伝統芸能を継承。	諏訪神社、敬老会
同上 川内村文化財保存会	諏訪神社での「浦安の舞」奉納。伝統芸能を継承。	諏訪神社、川内まつり
同上 町獅子世話人会	川内村新嘗祭、天山祭等の奉納。伝統芸能を継承。	諏訪神社、新嘗祭、天山祭、柳橋歌舞伎
同上 西山獅子保存会	諏訪神社例大祭等での奉納。伝統芸能を継承。	諏訪神社、天山祭

### 3. 高校生対象の文化・教育研究活動 (決定) 団体と活動名 平成29年度上期2団体、助成金額 20 万円

団体名	助成対象活動の内容	活動場所
県立川俣高等学校 家庭クラブ・JRC 同好会	川俣町内高齢福祉施設でのボランティア活動、ボランティア活動を通して地域への社会貢献。	川俣町
県立只見高等学校 ボランティア愛好会	只見町内老人ホーム等でのボランティア活動、只見町内清掃活動。	只見町

### 4. 高校生のスポーツ・文化活躍支援助成 平成28年度支援対象生徒数と助成金額

大会名	出場選手・参加生徒	対象校	助成額
全国高等学校総合体育大会 (夏・冬)	642 名	75 校	321 万円
全国高等学校定時制通信制大会	106 名	10 校	53 万円
全国高等学校総合文化祭	152 名	34 校	76 万円
計	900 名	119 校	450 万円

※この助成は2020年東京オリンピックが開催されるまでの5年間実施いたします。

## TOPICS

# 当財団の奨学金事業について

「平成30年度新規奨学生」の募集を開始します。

「募集期間」は、平成29年5月～6月です (募集開始時に発表します)。「願書・推薦調書等の必要書類」は県内の各高等学校校長宛へ送付いたします。(学校を通しての申込みとなります)。

通常枠15名に、公益財団法人未延財団様からの義援金300万円を原資とする「未延財団特別枠」10名を加えて25名の募集をしております。

なお、「奨学生募集の内容について」は左記のとおりです (当財団のホームページへも掲載しています)。

### 1. 応募資格

次の各号の要件に該当する方

- 福島県内在住の高等学校を卒業予定の方で、学校教育法に定める大学のうち、4年制以上の大学に進学を希望する方。
  - 学業優秀、心身健全、品行方正である方。
  - 経済的理由のため修学が困難であると認められること。
  - 福島県内に居住し、生計を維持する保護者の子弟であること。
  - 在学する高等学校長の推薦を得られる方。
- ※ なお、他の奨学金制度との併用も可能です。

### 2. 奨学金の給付額 (返済の義務はありません)

入学年度	年額	200,000円
2学年～4学年	年額	200,000円
総額		800,000円

### 3. 奨学資金の給付期間 入学後 4年間

### 4. 採用予定数

25名 (通常枠15名、及び未延財団特別枠10名)

### 5. 選考および決定通知

- 当財団規定により審査委員会の選考を経て理事会において決定 (内定) します。決定後速やかに在学する高等学校長経由で本人あて通知します。
- 入学後大学の在学証明書の提出により確認し、正式採用者と決定します。

★お問い合わせは：《公益財団法人 東邦銀行教育・文化財団事務局 奨学金担当 TEL 024-523-5882》までお願いします。



原郷のほほえみ  
原郷のこけし群 西田記念館  
福島市荒井字横家 3-183 (アンナガーデン)  
TEL 024-593-0639 / FAX 024-593-0811  
http://nishidakinankan.or.jp/

# 企画展報告 ■平成28年12月～平成29年3月 「福島を中心とした こけし産地とその背景」



二人挽きロクロ

## 「こけし」工人のルーツは 木地師

ロクロを使って木材を挽く人は「木地師」と呼ばれ、椀や盆などの木地製品を作って生活する人でした。こけしは、そんな木地師たちが子供の玩具として生み出した人形で、湯治場のお土産品として長い間親しまれてきました。このため、こけし産地は木地師が営む木地業と関連深く、鳴子や木地山はかつて漆器の塗下木地を作る木地業が盛んな地

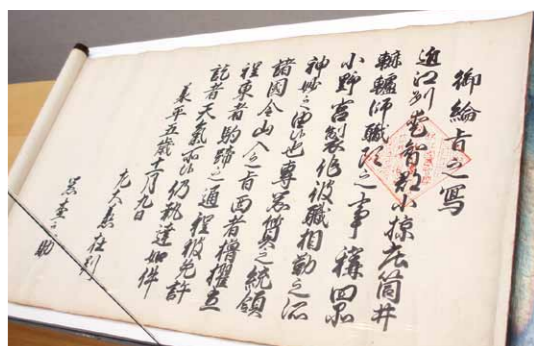


木地師の道具

域でした。今回の企画展では、このようなこけしが生まれる背景にある木地業について福島を中心で紹介しました。展示資料は郡山市の中ノ入と猪苗代町の達沢・高森で長年家宝として受け継がれてきたものをお借りして展示したため、大部分が一般公開でした。

## ■木地屋の祖神 惟喬親王伝説

かつて木地師たちの間には、ロクロ技術を発明したのは惟喬親王で、自分たちはその末裔であるという伝説がありました。このため、木地師たちは自分の家は高貴な家系であると信じ自尊心を持ち、婚姻も村内や他の村の木地師の間でしか行いませんでした。惟喬親王(844・897)は平安前期に実在した人物で、



中ノ入の木地屋文書(木地師の特権を認める論旨)

文徳天皇の第一皇子でした。しかし、弟の惟仁親王(後の清和天皇)との皇位継承争いに敗れると、都を離れ比叡山麓に隠棲しました。伝説によると、惟喬親王は隠棲の地近江国小椋の庄でロクロを発明してその技術を広めたため、木地屋の祖神として祀られるようになった。

滋賀県東近江市永源寺町の君ヶ畑と蛭谷には木地師発祥の地として惟喬親王を祀る神社があります。ここではかつて「氏子狩(駆)」と称して全国の木地師から寄付金を集め、惟喬親王の伝説を記した縁起書や木地師の特権を認めた論旨、免許状などを発行して木地師たちを支配していました。

今回の企画展では、このような木地屋文書も紹介しました。

## ■福島の木地業

福島の木地業は会津漆器と共に発展してきました。会津漆器は天正18年(1590)、蒲生氏郷が会津領転封の際に前の領地滋賀県から木地師と塗師を連れて会津へ入り、漆器産業を奨励したのが始まりでした。会津漆器は氏郷以降も保護育成され、江戸時代の木地師は藩より年貢が免除されるという優遇策もとられていました。このため、会津の山々ではたくさんの塗下木地が作



会津漆器

られ、会津漆器は海外へ輸出されるほどの大規模産業に発展しました。しかし、明治時代になると、山の所有権が確定し、木地師たちは自由に木の伐採が出来なくなり、また、さらに、食器の木地製品から陶磁器への移行がすすむと木地業は衰退の一途を辿り、多くの木地師は農民となりました。

## ■岩代木地山 中ノ入の木地業

郡山市湖南町三代字中ノ入はかつて「岩代木地山」と呼ばれ、日本初のこけし専門書『こけし這子の話』(天江富弥著)にも紹介された古くからの木地集落でした。この地域は全て小椋姓を名乗り、昭和初期まで木地業を営んでいました。小椋家系譜によると、祖先は惟喬親王より木地技術を受け継いだ小椋伯耆守光吉で、31代目の円後は天正18年(1590)、蒲生氏郷が漆器産業奨励のため滋賀県から伴ってきた木地師でした。小椋一族は会津各地を転々としなが

ら漆器の塗下木地を作り、会津漆器の発展を支えました。天明6年(1786)になると飢饉により安定した暮らしを求めて中ノ入へ移り、田畑を耕しながら木地業を行うようになっていきます。明治以降、木地業は衰退して昭和初期に終焉を迎えましたが、中ノ入には現在も惟喬親王を祀る大皇神社や名号碑など木地師集落であった名残が見られます。

## ■猪苗代町高森・達沢の木地業



猪苗代の木地屋文書と達沢村絵図

会津藩の地誌『新編会津風土記』によると、高森の木地師の祖先は蒲生氏郷と共に会津にきた木地頭佐藤和泉で、そのルーツは惟喬親王の重臣藤原久長と言われています。佐藤和泉の子孫は代々彦右衛門と名乗り、山都町一ノ木や北塩原村の雄子沢、小野川を経て高森へやってきました。また、雄子沢から達沢に移動した木地師たちもおり、高森・達沢の木地集落はいずれも享保3年(1718)に成立したと言われています。高森・達沢は土湯への木地業伝承経路に有力視されている地域で、その技術は現在の土湯こけしにつながっていると考えられています。

## ■土湯木地業

木地業が始まった当初、土湯では漆をかけない白木の木地製品が作られていました。明和・安永時代(1764・



木地製品 練鉢

1781)には川俣の織物産業発展と共に織機用木管が多く作られるようになり、木地業は栄えていきました。さらに天保時代(1830・1844)になると、彩色を施した木地玩具も作られるようになり、湯治客の土産物としてこけしが誕生したと言われています。

土湯は農耕には狭く、旅籠や炭焼などで生計を立てる地域だったため、木地業は重要な産業でした。かつてのこけし工人も林業に関わりながら副業として木地業を行っていたといわれています。

東邦銀行教育・文化財団が、平成28年度に助成を行った文化・スポーツ団体の活動から、今回は福島市の「パシオン」ブーロ・フラメンコ」と、猪苗代町の「ジギスカップ実行委員会（マウンテンバイク）」、および、平成29年度に助成を行う「地域の活性化に貢献する文化活動」で川内村の「川内村文化財保存会」、「高校生対象の文化・教育研究活動」で「福島県立川俣高等学校家庭クラブ・JRC同好会」「福島県立只見高等学校ボランティア愛好会」の活動をご紹介します

文化・スポーツ活動  
平成28年度上期  
助成団体  
【文化部門】

パシオン・ブーロ・フラメンコ (福島市)  
第6回発表会  
ブイエスタデヴェエラーノ

平成28年7月24日(日) 福島テルサFTホール

発表会は、今までの練習の成果をただ踊るだけではなくカンテ(歌)を感じ自分自身を表現すること、さらに一歩踏み込み観客に何かを伝えられるような踊りを披露することを目標に、フラメンコの魅力を多くの方に紹介しようと開催されました。

バイレ(踊り手)&ギター・カンテ(歌い手)とともに

観客の方からは「一段と個々のレベルが上がりとでも洗練されてカッコいい出来でした。踊っている人たちの気持ちが伝わってきて感動しました」との声がありました。会員からは「本番では曲ごとに異なる観客の熱気や興奮が肌で感じられ、会場との一体感、臨場感を忘れないようにしたいです」とやり切った充実感や今後の意欲が感じられました。会長の梶川様は「観衆の皆様にはバラエティに富んだプログラムで、踊り、唄、楽器演奏等を披露できました。多くの方々をサポートで無事終了できたことに感謝いたします。近い将来「各人が好きな曲をソロで踊る」本場の「ダブルオ」のような舞台を設けてみたい」と声を弾ませていました。



当団体は、スペインの伝統舞踊フラメンコの精神を研究・追及し舞踊技術の向上を目指す。また会員相互の親睦を図るとともに、地域文化の向上に寄与することを目的としている。平成11年4月設立、現会員数17名。

文化・スポーツ活動  
平成28年度上期  
助成団体  
【スポーツ部門】

ジギスカップ実行委員会(マウンテンバイク)(猪苗代町)  
10周年記念事業

平成28年7月31日(日)、8月28日(日)、10月1日(土) 磐梯南ヶ丘牧場

コースを疾風のよう

記念事業は、参加した子どもたちが安全に自転車に乗るために、交通ルールの学習、マナーや操作技術を身に付ける、事故や怪我から身を守る活動等を目的に3回開催されました。

第1回・第2回は「がんばる事を楽しむ体験 ジュニアMTBスクール」を会員らが指導、参加者は愛車のマウンテンバイクに乗り、各自のレベルにあったコースを疾走していました。



当団体は、ジギスカンカップなどのマウンテンバイク大会を数回開催することにより、観光地としての猪苗代町の発展、及び活性化、マウンテンバイクというスポーツの振興に寄与することを目的としている。平成9年5月設立、現会員数22名。

子どもたちは「バイクの乗り方やパントラックの走り方など教えてもらい上手く出来るようになり嬉しかった。友達が出来たので楽しかったです」と大満足でした。保護者は「子供たちの笑いが絶えず、真剣な眼差でもとても良いと思いました。自分の息子も本格的に始めるにはいい刺激になっています」と成長に目を細めていました。第3回はトップアスリートに学ぶ「がんばる事を楽しんで可能性を伸ばそう」。

森山実行委員長は「子どもたちが、コース整備の大切さと、マウンテンバイクの基本的なメンテナンスや、操作技術を学び、技術向上を実感しています。また、みんなで練習できたことや一緒に仲間が出来たことが嬉しかったようです。子どもたちの真剣な姿が忘れられません」と話していました。

「地域の活性化に貢献する文化活動」平成29年度助成団体

川内村文化財保存会【浦安の舞】  
川内村無形民俗文化財の保存伝承

浦安の舞は神前巫女神楽舞の一つで、川内村でもこの舞を第4行政区と第7行政区で継承され、毎年五穀豊穡と無病息災等のお祈りとして神社への舞が奉納されてきました。

2011年の大震災と原子力災害によって巫女役の中学生女子が極端に少なくなり、伝統芸能保存は厳しい状況にありました。現在帰還した中学生は震災前の3割、17名ですが、学校からも地域活動の伝統芸能への協力を理解をいただき、夜間練習が行われました。数ヶ月を掛けて、奉納するまでとなりました。今年、神社での奉納の外、



浦安の舞練習

浦安の舞奉納

- 川内村では、次の5地区、6保存会(重要無形民俗文化財)の皆さんが、諏訪神社の伝統文化保存のため400年の伝統を継承し活動されています。
- 高田島神楽保存会
- 高田島獅子保存会
- 川内村大字上川内字前谷地
- 西郷三匹獅子舞保存会
- 川内村大字上川内字関場
- 川内村文化財保存会【浦安の舞】
- 川内村大字下川内字瀬耳上
- 町獅子世話人会
- 川内村大字下川内字坂シ内
- 西山獅子保存会
- 川内村大字下川内字水上

「高校生対象の文化・教育研究活動」平成29年度助成団体

川俣高家庭クラブ・JRC同好会  
若い力で地域への方々を元気に!

川俣町内高齢福祉施設でのボランティア活動や地域への社会貢献活動に取り組んでいます。



山本産区飯館住宅にて夏祭りのボランティア

只見高ボランティア愛好会  
地域や学校への貢献

地域や学校に貢献できるよう、様々なボランティア活動や只見町内清掃活動等に積極的に取り組んでいます。会長の齋藤さんは「全員で真剣に取り組んでいます。特に校外のボランティア活動は地域の方々と交流の場であり、コミュニケーション能力はとても大切だと実感しています」と話してくれました。

「高齢者施設」等での活動、その他町内のお祭りや行事にも参加しています。沢山の方と交流を深め、多くのことを学ぶことができます」と話してくれました。会員からは「ありがとう」とか、「若い人の元気をもらったよ」などの一言がとても嬉しく、感謝される喜びを知りました」と充実感が感じられました。顧問の先生からは「生徒達が貴重な体験ができ、生徒達こそ皆様から沢山の元気をいただいております。このような体験は学校の勉強に勝るとも劣らない糧を得たと感じております。この体験を今後に生かしてもらいたいと思っております」とお話を頂きました。



ペットボトルキャップカウント

と今後の活動に大きな期待を寄せています。



平成 28 年 11 月 27 日(日) 創立 60 周年記念演奏会「今日が一番輝いて」開催 (福島市音楽堂)

## これからも歌い、 輝き続けたい!

福島市おかあさん合唱団 (福島市)



合唱への尽きぬ思いを話してくれた、左から、菅野幸子さん(庶務)、逸見文子さん(委員長)、赤井三工子さん(副委員長)、樽川光子さん(庶務)

歌が好きだから、  
今でも歌っている

福島市音楽堂の練習場に、「群青」の美しい歌声が響く。平成 24 年春に東日本大震災の被災地南相馬市で生まれたこの曲は、いまでは全国で知られ、特別の想いをもって歌われている。今年 5 月の復興支援コンサートで大阪の合唱団と合同で歌うために、練習を始めたところだった。

昨年 11 月、創立 60 周年記念演奏会「今日が一番輝いて」を成功させた。委員長の逸見文子さんは「皆さん誰もが、いくら歌が好きでも家族の応援がなくては続けられなかったでしょうね」と振り返る。中にはほぼ 60 年間歌い続けている団員もいる。「日々の活動は、楽しみですが大変でした」。赤ちゃんを抱えて、おむつをもって、練習に駆けつけたという。家庭の主婦が週 2 回、朝 9 時半からの練習に出るのは大変だ。家人に送ってもらうたり、家の仕事を頼んだり…。

練習が日中なので仕事を退職してからやつと入団したという人もいる。団員の年齢層が上がり、昔に比べて技術的には衰えたかもしれないけれど



「群青」を練習する団員の皆さん

ども、やっぱり歌いたい、歌から離れられない。皆さんがそう話す。

合唱王国くくしまの  
歩みとともに今へ

昭和 31 年(1956)に公民館の婦人学級で産声を上げた。創立 60 年を超える歴史は全国の女声合唱団の中でも屈指という。平成 2 年(1990)には全日本お母さんクラス全国大会でグランプリを獲得するなど、合唱王国くくしまの一翼も担ってきた。

初代指揮者は高野廣治さん。FM C 混声合唱団を率いて全国にその名を馳せた高野さんが、当時お母さん合唱団の存在は全国的にも珍しいと二つ返事で引き受け、基礎を作り上げた。その後何代かの指揮者を経て、現在は高野さんの長女・洋子さんが指揮を務めている。「このぐらいしか出来ないだろう」などの手加減とは無縁の、厳しい声で指導する姿は父譲り、と古参メンバーは話す。

★「今日」を一番輝かせた、  
60 周年記念講演会

昨年、創立 60 周年記念演奏会「今日が一番輝いて」を 11 月に開催した。2 年間そのために準備を重ねた。当初は「今のレベルでは皆さんにお聴かせできない」と尻込みしたり反対する団員もいたが、「とにかく前に進もう、年齢を重ねても元気で歌う喜びを伝えよう」という意気込み



指揮者の高野洋子さん。親子二代で熱い指導を続ける

で準備を進めた。そして迎えた本番の日、東日本大震災・原発事故からの 1 日も早い復興を願って、元気な笑顔を取り戻せるように応援したいとの思い、そして今までの長い間、活動を支えてくれた人々たちへの感謝の思いを込めたその歌声は、60 年の歩みの中で育んだ厚みと味わいのあるハーモニーで聴衆を魅了した。団員自身も「年を重ねた今日が一番輝いている」ことを聴衆に伝えられたという充実感が満たされた。「よかったね」「やってくれた!」そんな声を交わし合った。

いまでもその輝きの中にいる。だが「今後この状態をどれだけ維持していけるか」が課題と逸見さん。共働きが多くなり若いお母さんがなかなか入団しないのが悩みの一つだ。最盛期は約六十人いた団員数も、いまは 23 人。様々な課題を抱えながら再出発の時期を迎えている。

新たな励みとなっているのが、5 月 13 日に福島市音楽堂で開催される復興支援コンサートだ。大阪のレガテ女声合唱団が福島合唱団と一緒に歌いたいと企画し、会場を予約した。そこで一緒に歌いたい、と申し出があったのが「群青」だ。60 周年を飛び越えて、「これからも、合唱を続けていけることを、全国の合唱の仲間と共に示したい」と意欲を燃やしている。

### 編集後記

高校生最大のスポーツ・文化の祭典である全国高等学校総合体育大会は、今年度東北 3 県(宮城・山形・福島県)で開催され、総合文化祭は宮城県で共に 7 月末から開催されます。全国から 5 万人を超える瑞々しく豊かなエネルギーを持った高校生が集うことから、熱戦が繰り広げられ地元との交流が深まることを期待しています。

当財団は、県内高校生の活躍を「スポーツ・文化活動活躍支援助成」により、積極的に応援して参ります。(KK)

かがやく⑩ 平成 29 年 4 月 10 日発行

発行所 公益財団法人 東邦銀行 教育・文化財団  
http://www.tohobankkyoikubunka.jp/  
〒960-8041 福島市大町 4-4  
電話 024-523-5882 FAX 024-523-3265

発行人 鹿野 幸一 ©東邦銀行 教育・文化財団  
制作 株式会社 進和クリエイティブセンター  
印刷 株式会社 日進堂印刷所